

私の読書の原点

私で良いのかな――

じわじわと不安が広がったのは、気軽に原稿依頼を引き受けた数日後のことです。

二〇〇一年に四十七歳で大学院生となった私は、「二児の母、信州大学大学院に合格」などと新聞各紙で紹介されたことがきっかけで、地元紙「市民タイムス」に「食卓が勉強机」というコラムを連載中ですが、その拙い文章が「三郷文化」編集担当各位のお目にとまり、思い掛けない原稿依頼の書状を頂戴するに至ったのでした。

その時ふと私は、短歌を習う母が三郷歌壇に掲載された自作品を喜び見せてくれる「三郷文化」という冊子、その格調の高さや、読み手に対して密度の濃さを印象付ける存在感の大きさを思い浮かべ躊躇し始めていたのです。二十余年続くという由緒ある季刊誌の、事もあろうにこのコーナーへ登場するのが自分如きで良いのだろうか。私は、「肩書きもないのに、どうしよう?」と、息子に宛ててEメールを送りました。すると数分後に返答メールの着信あり、「主婦(充電中)」でいけよ!。そんなわけで今

回は、「三郷文化」には異例ながら、ノンブランド・主婦の登場と相成った次第です。

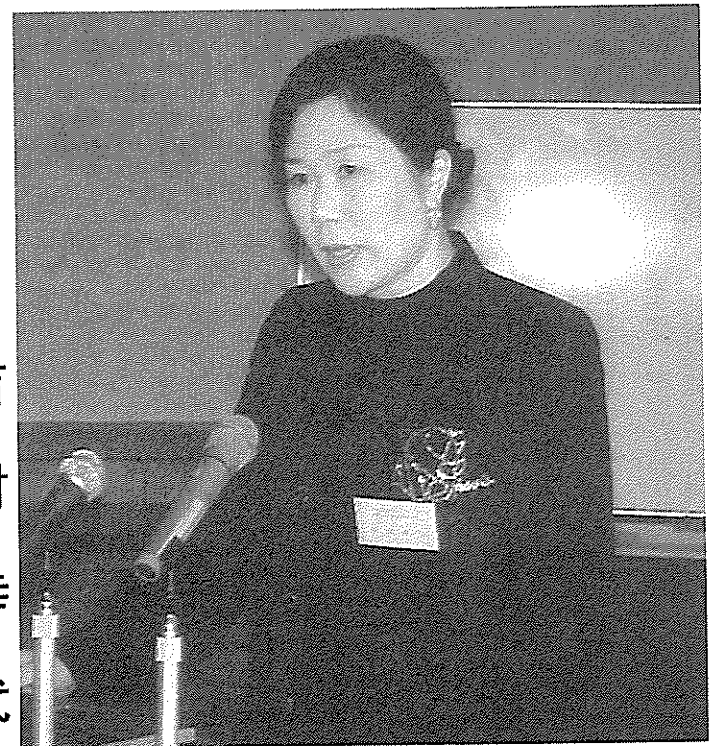
私は三郷村と
同い年です

少々得意げなのは、生粋の三郷っ子だということ……ちようど半世紀前、合併によって三郷村が誕生したその年に、生まれも育ちも三郷村上長尾で村役場に勤務する父と、同村内・楡から嫁いで来た母との間に生を受けました。

結婚後は松本市寿台

の住人として、室山から眺望できる松本平を南東の反対側から眺めて生活しています。従って、私の松本市民歴は三郷村民であつた年数を超えつつあるわけですが、生粋の三郷っ子だけあつて、「自分の本質はいつまで経っても三郷人」と実感することが度々あるのです。年老いて痴呆症に陥った人々が、最近のことは忘れても昔のことをよく覚えているものだと言いますが、恐ら

松本市 吉村幸代



信州大学大学院において研究発表中の筆者

Profile

● よしむら さちよ
(松本市寿台在住)
1954年1月 三郷村上長尾生まれ
(旧姓・宮坂)
2003年3月 信州大学大学院
経済・社会政策科学研究科
修士課程修了
現在は主婦の立場から、新聞などにメッセージを発信中
E-mail: sachiyo_kun@ybb.ne.jp

くそれと同様なのでしょう。故郷で過ごした幼児期や成長期の思い出は非常に強烈で、それだけに故郷とは個人の人格形成に計り知れない影響力を持っている場所なのだと言えそうです。

子育てが

一段落し始めた頃

多くの母たちがそうであるように、私は「このままで良いのだろうか。何かしなくては取り残されてしまいうさだ」などと、ある種の焦燥感を抱いて暮らしていました。ともすれば平凡で穏やかな日々の気楽さに埋もれてしまふようになっていた私の背中を強く押したのは、大学進学が決まって上京する娘の一言でした。「今までありがと

う。もう私の世話は要らないし、そのうち弟も家を離れる時が来る。せつかくできた自由時間を細切れにしなければいけないで、ママも何かまとまったことをやった方が良いでしょう。こうしてスタートした受験勉強は、私に信州大学大学院経済・社会政策科学研究科合格という吉報をもたらしてくれました。そして入学から二年間、我が子と同年齢の学生たちに混じって経営学やマーケティングを学び、「スーパーマーケットにおける消費者モニター制度の有益性―株式会社アツプルランドの事例からの考察―」という論文で、経済学修士号を取得しました。この成果の陰には、学問という究極の道楽を許し、学費負担までしてくれた夫の理解と協力があつたことも付言しておきます。本研究は、子育ての傍ら各社の社外モニターとして社会参加して来た実績と主婦感覚、および経営学との融合だと自負し、現在もアツプルランドにおいてモニター制度のコーディネーター役を務めつつ研究続行中です。

「意は、適切に

表現されなければ、無である」

とは、私の指導教授・茂木信太郎先生の教えですが、大学院では機会ある毎に意見発表とレポート提出を求められました。もし



学位授与式の朝、上長尾の実家にて夫と

自分が、ものを書くことの苦手な人間だったならば一体どうなっていたらだろうかと思像すると、冷や汗がにじむ程です。そして常に、表現力の根幹を成す知識量や思考力など、言わば学問全ての礎が読書である事実をも痛感させられました。

かくも重要性の高い読書習慣の原点を探ろうとすると、決まって私の脳裏にはヒマラヤ杉の校門の旧・温明小学校、その黒光りする木製の廊下の先にある図書室が浮かびます。鮮明な記憶は司書の西川淑子先生が一枚一枚手書きされた図書ラベルの綺麗な文字にまでも及び、当時のラベルの貼られた懐かしい本が今も書棚に並んでいるのではないかと思ったりすると、三郷小学校の図書館を訪ねてみたい衝動に駆られる私です。